

徒それぞれの学力偏差値を算出した。

1表 地域類型別・教科別・男女別の素点による成績

		国語			社会			数学			理科			英語			
		平均	標準偏差	変異係数	平均	標準偏差	変異係数	平均	標準偏差	変異係数	平均	標準偏差	変異係数	平均	標準偏差	変異係数	
第2学年	国	男	56.0	20.9	37.3	54.8	22.1	40.3	65.1	21.1	32.4	60.5	19.1	31.6	66.2	23.5	35.5
		女	58.1	20.4	35.1	46.9	20.1	42.9	62.9	19.8	31.5	54.3	16.7	30.8	70.2	20.6	29.3
	県	男	48.8	20.6	42.2	46.9	21.1	45.0	57.5	20.3	35.3	55.2	18.4	33.3	56.9	23.5	41.3
		女	50.6	20.0	39.5	39.5	17.8	45.1	55.8	18.8	33.7	49.6	15.2	30.6	62.3	21.3	34.2
第3学年	国	男	60.6	19.7	32.5	57.6	21.8	37.8	59.2	22.7	38.3	57.1	19.8	34.7	64.1	22.1	34.5
		女	60.8	18.7	30.8	49.6	19.3	38.9	55.1	21.6	39.2	49.1	17.5	35.6	66.2	19.7	29.8
	県	男	53.3	19.9	37.3	51.0	20.8	40.8	50.4	21.0	41.7	50.7	18.7	36.9	54.9	21.3	38.8
		女	53.7	18.8	35.0	43.9	17.5	39.9	47.0	19.4	41.3	43.4	15.8	36.4	58.5	19.1	32.6

2表 学年別・教科別・男女別の学力偏差値

		国語	社会	数学	理科	英語
第2学年	男	46.6	46.4	46.4	47.2	46.0
	女	46.3	46.3	46.4	47.2	46.2
第3学年	男	46.3	47.0	46.1	46.8	45.8
	女	46.2	47.1	46.3	46.7	46.1

学力調査に表われた得点の全国平均では男子は社会、数学、理科、女子は国語、英語に優れている。そしてこの現象はそのまま本県についてもみられる。しかし、本県の男子の全国男子のうちにおける相対的な位置、および女子のそれについてみると、国語では男子の方が女子

よりやや高く、社会、理科は男、女とも同じ相対的な位置に、数学、英語では女子の方が高い位置にある。

(4) 学校単位の成績

学力調査の学校を単位とした各教科の得点は、いろいろな要因の働きかけの結果として表わされたものである。そこで生活的な要因を統制した上で学校間の学力差をみる目的で学校の通学区の人口密度と産業構造とによって類型化した14類型の内本県において学校数の多い商業市街、農山村、純農村、普通農村の4地域について学校間の得点差を見てみることにした。そこで得点階級に対する学校の分布状況を相対度数をもって表わした。そのうちの国語と数学について考察した。

3表 国語の成績の学校単位の分布

地域	階級	26.0	32.0	34.0	36.0	38.0	40.0	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0	52.0	54.0	56.0	58.0	60.0	62.0	64.0	66.0	68.0	計
		27.9	33.9	35.9	39.9	39.0	41.9	43.9	45.9	47.9	49.9	51.9	53.9	55.9	57.9	59.9	61.9	63.9	65.9	67.9	69.9	
商業市街	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.1	9.1	31.9	13.6	22.8	4.5	4.5	4.5	100.0
農山村	2.3	1.1	1.1	—	3.4	5.7	5.7	9.1	17.1	13.6	12.5	10.2	8.0	5.7	2.3	1.1	—	—	—	1.1	—	100.0
純農村	—	—	0.9	—	1.8	3.5	8.0	14.2	15.8	20.3	15.0	8.0	8.0	2.7	1.8	—	—	—	—	—	—	100.0
普通農村	—	2.5	—	—	—	1.2	3.7	2.5	14.8	13.6	13.6	16.1	11.1	8.6	7.4	1.2	—	2.5	1.2	—	—	100.0

商業市街地域は階級58.0～59.9の相対度数は31.9%で最も多く、分布型は2つの頂点をもっているが、他の地域に比して良い成績の階級に分布している。また、学校単位の成績の最高点との差はおよそ15点で他の3地域に比べて最も小さい。

この最高点と最低点との差で最も大きいのは農山村地域であり、その差はおよそ41.9点である。他の教科について最高点と最低点の差の最も大きいのは社会で普通農村が65点、数学では農山村、純農村が37点、理科では普通農村が49点、英語では普通農村が59点となっている。そして商業市街地域は各教科の得点差が13～27の範囲にあってその数値が小さい。地域類型によって、各学校の生活的な要因を統制した後に於いてなお文化度の指標と

みられる生徒数において、商業市街地域に属する学校が428～1,095人の間に分布しているものに対し、市街地域以外の地域では、たとえば普通農村地域の30～1,414人のようにその差が大きく、学校間の文化度に大きな差異のあることがわかる。このことが市街地域以外の地域における大きな得点差を生みだした要因の1つとみられる。

(5) 地域類型別の学校・学校規模と学力との相関

学校・学級規模以外の教育的な要因については何等の考慮を払うことなしに学校・学級規模と学力との関係を相関係数によって表わしてみる。

この場合学校単位の学力には第2、第3学年とも国語、社会、数学、理科、英語の5つの教科の標準化した